

40

35

30

25

20

15

香雪先生鈎摹

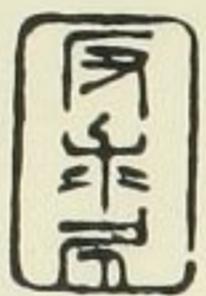
名家手稿

初集

天寧閣藏板



香雪



文庫6  
1412  
1



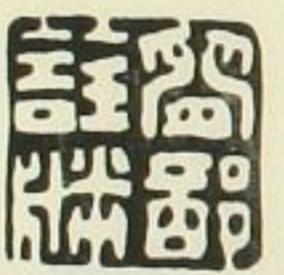
少



多

北

京



南

名家手簡初集目錄

上卷

物 徒 徒

瀧 鶴 臺

深 見 天 溪

佐 木 池 莓

伊 藤 蘭 嶋

宇 佐 義 瀧 水

下卷

細 井 廣 泽  
僧 南 谷  
伊 藤 東 涙  
松 下 烏 石  
梁 田 蜕 巖

秋山玉山

服部南郭

三井龍湖

中井竹山

江水北流

釋六如

岡本喜庵

趙陶齋

物祖錄

名雙松字茂卿又号謾園通稱總右閣門  
享保十三年沒年六十三

は  
古事記  
云、清秀  
ゆきよか之社仙乘云  
莫アチ後堂に風呂のみ作  
之あお在家様又曰  
此乃基元山主之原

幸為玉面好古音三代  
時大惜尚上迎之小敢忽

諸伏詩 之六謹而送至

以本年正月五日三月庵集  
の御内閣先生也也寫

而行 ふ萬

右復  
李鵠大夫 楊

立

細井廣澤

名知慎字云謹別号恩貽齋蕉林菴寄臘堂  
享保三十年夏年七十八

細井廣澤

蒙古文

蒙古文

A vertical column of Chinese calligraphy in cursive script (caoshu) on aged paper. The characters are fluid and expressive, written with black ink. The text reads: "王羲之書此扇以贈張司馬" (Written by Wang Xizhi, presented to Zhang Shyma on this fan).

棲山房題跋

瀧鶴臺名長愷字彌八長門侯臣周南後為明倫館祭酒年六十五沒

はるかに人よ  
ゆきとてかくす  
ゆきつゝ月の  
ゆきとてかくす  
あゝ書いさ  
たまふよ

是乃法身佛家  
於佛說法  
說法中事  
說法中事  
說法中事  
說法中事  
說法中事  
說法中事  
說法中事

卷之三

五  
年  
庚  
午  
九  
月  
七  
日  
成  
文

ほのむら

佐野  
孫  
山  
本  
吉

僧南谷 佑木氏又冒松下氏蘿髮号南谷能書元文元年化



モルハ、ミムラセ  
アリタマニシテ  
カタツムリノコトナ  
カタツムリノコトナ  
カタツムリノコトナ

モルハ、ミムラセ  
アリタマニシテ  
カタツムリノコトナ  
カタツムリノコトナ  
カタツムリノコトナ

伊藤東涯名長胤字源藏号慥齋仁庵長子住京師  
元文五年沒年六十七

稿至北流  
任事原稿  
詩題此作  
字子雲子  
高祖之孫  
名之曰興

萬葉集  
卷之二  
三十六

有風吹草低見牛羊

草木行多也  
風吹草低見牛羊

一葉一世界

萬物皆有裂縫

通氣處也

起舞

初風未盡也

是也

多蒙勸我

是也

苦悶也

是也

立  
之  
如  
人

卷之三

佐木池菴

名玄龍字煥甫通稱万次郎江戸人畫  
学朝鮮孟魯軒享保八年卒



まゆの因と曰く  
の事、とては花の後  
種をもとまつて  
お城の事、とては  
名前をもとまつて  
第一に  
元山院

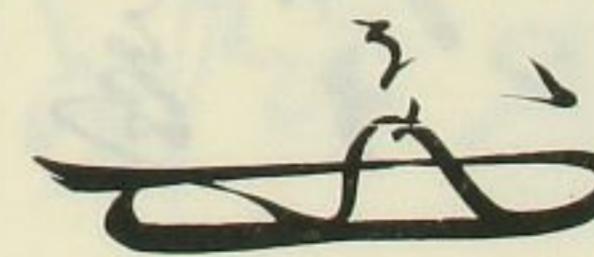
御、かねて西門十室  
柳の祠と在る  
達、おおきにあつた  
事、わざと、うつ  
ゆきしと、ゆき  
画はしてあるア

あらぬの、のれに

おまえ

さすけ

源を魚つ



松下鳥石名辰字君敬後改首辰字神力東武人  
書學度澤後成一家安永元年辛未

ねぢうれ  
風を拂ひて  
月の  
波を打つ

身あへ

みのまゝのまへ左にふれ

けづ帳をふくらめ

やうに數い、まち廻り度下

在りゆゑ、すやうに風氣れ

たまけ、神はよきなう

まとて、都がわせ

まくら、上むち

ねはる、かの

事は、心もとま

きまつて、上

やまとい、ゆ

コケたる、消し

而日も、事

元

ウリ松、ウリ根  
モウケツ、モウケツ  
リヌカ、リヌカ  
モウケツ、モウケツ

丁め

伊藤蘭嶠名長堅字才藏号應璽仁齋五男  
為紀藩文学安永七年沒

壬午夏月  
秉東山古海  
伊藤蘭嶠

此後國事甚多之變

蒙古兵大破之內庫

蒙古兵敗可汗

乞和而還之

又欲還焉亦不許

一經神宗之

蒙古兵大破之

大將軍之子也

已死蒙古之降者  
蒙古兵大破之

栗田蛻巖

名邦美字景鷗通稱才右衛門仕明石侯  
寶曆年中沒享八十九

萬葉抄  
金  
ありまし

明人、而計をやむに  
出坡するも、之を以て  
此處を一歩も出でざる  
を、年々、其老病前、  
不許、久し、多事上て、  
汝の御子、よだは、あひて  
がす様、怪しきは、不、

まきまみ及くも、未だ見  
仰耳。那の事は、そぞり  
あふれ、旅宿に於て、  
ゆる夕方より、でも生たる  
石けい音と、以て、ゆる  
ゆる、かうのと、おもひ、いふ  
行うる、あぐらをくく

五毛ふす及くも、  
八月九日

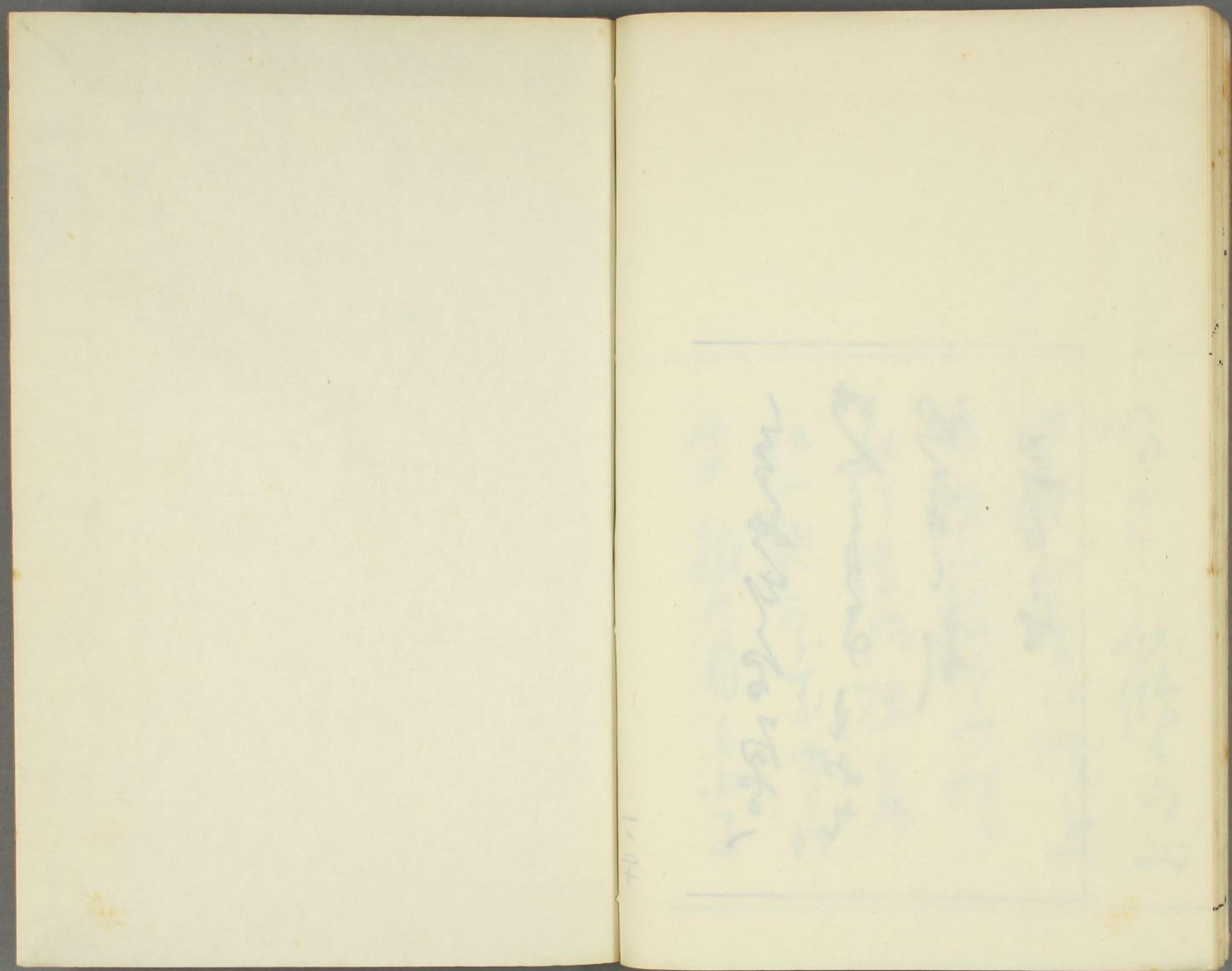
宇佐美瀧水

名惠字子迪通稱惠助

柏原玉林室之筆

のうとうとあはれ  
はなはなはなはな  
はなはなはなはな  
はなはなはなはな  
はなはなはなはな  
はなはなはなはな  
はなはなはなはな  
はなはなはなはな  
はなはなはなはな  
はなはなはなはな

のうとうとあはれ  
はなはなはなはな  
はなはなはなはな  
はなはなはなはな  
はなはなはなはな  
はなはなはなはな  
はなはなはなはな  
はなはなはなはな  
はなはなはなはな  
はなはなはなはな



早稻田大学図書館

011688994251